

まちひとしごと

Vol. 17

北海道旅客鉄道(株)倶知安駅

駅長 横関 章さん

人との出会いを大切に、感謝して



町の玄関口である倶知安駅で今年の4月から駅長を務める横

関章さんは、昭和36年に羊蹄山麓の喜茂別町に生まれた。

「私が生まれ育った町にも昔は国鉄胆振線の駅があり、通学に利用するなど、幼いころから鉄道はとても身近な乗り物でした」

昭和55年の春、高校卒業と同時に当時の日本国有鉄道に入社した横関さんは、駅員・車掌として数年勤務した後、自動車販売を行う会社へ派遣となり、担当するエリアが道央圏だったことから、倶知安町内の自動車修理工場などとも付き合いがあったという。その後、平成19年から駅長として余市・静内・厚別・石狩当別の駅に勤務し、この春、倶知

安駅に赴任した。

「私が国鉄時代に初めて赴任したのが倶知安駅のある函館本線の上目名駅（昭和59年廃駅）でした。倶知安町には、かつて自動車の営業をしていた頃にお世話になった社長さんたちがいたり、非常になじみ深く、懐かしい思いもあります」

横関さんは、鉄道が地域住民の足として、他の公共交通機関との連携を深めることや、移動の楽しみの提案をすることで町の人にとって身近な乗り物となり、より多くの人の利用に繋がれどと話す。

「近年、倶知安駅は冬に多くの外国人のお客様が利用されるようになり、時にはその対応に苦慮することもあると聞いています。この駅は海外から訪れるお客様にとって町の入口となることから、利用者の気持ちを理解し応対することで、知らない土地で感じる不安を少しでも和らげることができればと考えています」

町の変化とともに駅の利用形態も変化している。鉄道と町の歴史は深く結びついており、倶知安町においてもその町並みの変遷などに大きく関わってきたと言えるだろう。横関さんは駅と町の関わりについて次のように話していた。

「今後新幹線駅の開業などで駅舎をはじめ町並みは大きく変わっていきますが、共に歩んできたその歴史や文化を守り、そしてこれからもこ

の町と一緒に発展していければと考えています」

倶知安駅の駅長は、共和町から蘭越町までの7駅を管理しており、輸送の安全確保はもちろん、駅施設や日々の運行管理、社員の安全にも目を配るほか、先月の台風上陸の際の異常時への対応など多くの業務を行う。

横関さんは、駅長という多忙な職に就きながらも、多くの人が行きかう駅という場所で、利用者をはじめたくさんの人との出会いを大切にしていると私たちに話してくれた。

「人は生まれてから人生を終えるまで多くの出会いがあります。その日々の出会いをただ通り過ぎるのではなく、自らの経験として活かしていきたいと考えています。一つ一つの出会いを大切にし、心からの感謝を伝えることが人との信頼関係づくりに繋がり、結果的に私自身も会社も成長していくものと信じています」